

設立趣意書

まちづくりとは、その地域に住んでいる人たちが、よりよい暮らしの実現を目指し、これからも住み続けたいと思える「まち」をつくることです。住民が 地域を取り巻く社会状況の変化に応じて、その地域の方向性を決め、自ら活動していくプロセスそのものです。

これからのまちづくりは、住民にとって暮らしの満足度、幸福度を高めていくことに価値観が置かれるでしょう。そうして守っていく地域を子孫につなげていく営みがまちづくりなのです。

これまで、まちづくりに関する諸事業はほとんどが行政頼み、行政任せだったのではないのでしょうか。まちづくりの主体、主役は地域住民です。そこに生活する住民自身が地域を愛し、地域に誇りを持ち、暮らしを楽しむことが大前提なのです。

現状はどうでしょうか？ 地域への愛着と誇りなくして、まちづくりはありません。私たち NPO「まちづくり 小松」は、小松市の住民が地域への愛着を深め、誇りを取り戻すための仕組みをつくることから、まちづくりを考えたいと思い、立ち上がりました。言い換えれば「住民自治」の強化を目指したいのです。

自治体は今、長期の景気低迷と借金増による財政難にあえいでいます。一方で、少子高齢社会や格差社会の到来で、行政サービスの多様化、多重化に迫られています。高度経済成長期のように、自治体がすべてのサービスを担える時代ではなくなり、自治体も業務の民間委託などコスト削減に取り組んでいます。公共サービスの担い手は何も行政だけではありません。NPO をはじめ、いわゆる「新しい公共」と呼ばれる組織が担う時代なのです。

まちづくりは地域住民の意識改革から必要です。合意形成された多様多岐にわたる事業を実践していくには、利益を追求しない NPO が担うのが最も適していると思います。私たち NPO「まちづくり小松」は地域住民、民間企業、そして行政と協働しながら、まちづくりを一歩ずつ進め、元気な小松、明るい小松、楽しい小松をつくっていきたいと思います。

「まちづくり小松」のスローガンは「自治をきたえる」「まちを生かす」「笑顔でくらす」です。具体的に取り組みたいことを紹介します。

「自治をきたえる」... 各小学校下にまちづくり会議(仮称、以下まち会)を設けます。校下町内会長や校下の各種団体代表や地元市議らが中心となるでしょうが、構成は各校下の主体性に委ねます。まち会ではまず、その校下の誇れる“宝”を再発見してもらい、校下民が合言葉にできるようなまちづくりのキャッチフレーズをつくります。一方で、その校下が抱える課題や問題点を出し合い、その解決策を話し合います。そして校下民として何ができるかを見だし、合意形成できた取り組みを実行に移します。

取り組みは、再発見した地域の魅力の発信、防犯など地域の安全、公園や緑地整備、まつりや伝統行事などの文化振興、名所旧跡の整備など交流人口増、中山間地や里山の整備、地域交通の導入、IT を駆使した地域情報の発信、アートによるまちづくり... など多種多様にわたるでしょう。校下民だけでできるもの、私たち NPO と協働するもの、行政の支援が不可欠なもの、それぞれ整理しながら実践していきましょう。まち会の運営には行政の協力が必要で、市役所の各地元職員担当制を提案します。

「まちを生かす」... 具体的なまちづくりは、ないものねだりではなくあるもの生かし、あるもの磨きで!と強調

したいのです。まち会で合意形成できた事業の実践はまさに、まちを生かす取り組みになります。このほか町家、寺社めぐり、産業観光、グリーンツーリズム、医療ツーリズムなどの開発も可能でしょう。地産地消の奨励、小松うどん、塩焼きそばなどの売り込みにも取り組みたいと思っています。

小松の顔であり、アイデンティティである中心市街地の再生は命題です。政策を誘導しながら行政と協働していかなければなりません。芦城、稚松校下のまち会に専門部会を設けて考えたいと思います。ヨーロッパの各都市のまちなかがにぎわっているのは、そこに人が住んでいる、生活しているからです。何よりもまちなかに人が住まなければなりません。商店街はまちなかに住む人たちの生活空間であるという視点を忘れずに、柔軟な発想で考えましょう。

にぎわいを創出するためのイベントも必要ですが、一過性ではなく継続性が重要です。NPO「まちづくり小松」として試みたいのは、小松駅高架 下など空きスペースを活用し、朝市、夕市、屋台村などをいつもの光景として定着させることです。空き店舗の活用には商店街や小松賑わいセンターと連携して、大学生や地元高校生との協働を仕掛けます。若者が集まるまちは活性化します。大和やコマツ跡地の利活用には住民自治をきたえる観点から、シンポジウムや討論型世論調査を企画したいと思います。

「笑顔でくらす」... まち会が軌道に乗れば、笑顔あふれるまちになるはずで す。笑顔があるまちには、にぎわいが生まれ、交流人口も増えるでしょう。なかには雇用を生むまち会も現れるでしょう。

笑顔でくらすためには高齢社会への対応も不可欠です。車を運転できない高 齢者にとって理想の生活空間は、市役所、商店街、病院、駅など生活インフラがそろった地域、小松市でいえばまちなかなのです。高齢者がまちなかに戻って来られるような政策が必要です。そのために、バリアフリー共同住宅、介護付きマンションをはじめ、高齢者が集えて各種情報を提供する「まちなかサロン」、持病や緊急の病気に対応できる「まちなか診療所」（できれば各科と薬局がそろった医療モール）などを誘致します。

さらに車の通行を規制し、歩けるまちを志向しなければなりません。自転車 専用道路があってもいいでしょう。また郊外からまちなかに通う人たちの交通インフラも必要で、まちバスやカーシェアリングの導入を働きかけます。これらはNPO「まちづくり小松」だけでは無理で、民間企業との協働で実現を目指します。

もう一つ、留学生を誘致し多文化共生時代に対応するまちを目指します。小松市にはブラジルからの労働者が比較的によく住んでいます。彼らと市民との交流はもちろん、小松短大を拡充して中国や韓国などアジア近隣諸国から日本語と日本文化を学ぶ生徒を受け入れ、帰国後は小松を PR してもらい、外国人 の誘客にもつなげ、“空都” にふさわしい国際都市を目指したいと考えます。同時に、国際理解を深める市民向けのイベントも開催して盛り上げます。

以上、NPO「まちづくり 小松」設立への思いを述べさせていただきました。若い人たちができるだけ多く小松市に定住し、小松市を離れた人たちも老後は 古里・小松市に帰りたい、と思えるまちが理想なのです。

小松市内には、まちの活性化を目指して様々な活動を展開している団体があります。これら活動のベクトルを合わせ、より太くて強い“矢”としていくため、これら各種団体にNPO「まちづくり小松」の正会員として参画してもらい、まちづくり連合体として運営し、「新しい公共」のプラットホーム役を担いたいと考えています。

なにとぞ皆様のご理解とご協力をお願いします。